桜船会だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 36 号
発行日　2016.05.29
発行者　桜 船 会
発行責任者　萩原大義

▲春の行事・写真コンテスト　最優秀作品「三渓園にて」　撮影：布施　明さん

いきいきライフ：第九の合唱　竹田俊幸
いきいきライフ：会社生活 40 年、そして大船地区研究所への期待　村上圭司
いきいきライフ：リタイヤしてから 3 年が経ちました　田中準一
いきいきライフ：第一の人生、振り返れば　酒井新一
エッセイ：古いものと新しいもの　三宅真
エッセイ：魅せられた山を描く　吉田義雄
行事報告：春の屋外行事　尾浦孝夫
同好会報告：デジカメ同好会　市川洋子
同好会報告：ハイキング同好会　富山勝己
事務局だより、編集後記　事務局

第九の合唱

竹田　俊幸

人類愛の讃歌、第九

年末の第九の演奏は、今や日本の定例行事となり、師走の日本の風物詩と云う感じです。プロの演奏とともに、多くのアマチュアの合唱団が各地に編成され、日本列島に歓喜の歌声が響き渡ります。その中に私の声も入っているという次第です。

嘗て、フランス革命やナポレオン戦争など争乱頻りのヨーロッパで、平和社会到来への希求を人類愛に託して生まれたこの第九が、戦後、世界に冠たる平和国家の道を歩む日本で広く愛され歌われるのも自然の流れでしょう。

七十の手習い

20 年ばかり前、当時まだ会社勤めの私の主な時間潰しはゴルフで、第九も、よく行ったオーチャードホールで東フィルの演奏を聴くと云うことはありましたが、歌うほうには特に関心が無かったと云うのが正直なところでした。そこへ、合唱経験豊富な友人の I さんから、逗子の第九の合唱に誘いが掛かったのです。テナーの人数が少ないからとのことでした。一応義理を立てて誘いに応ずることにしたのですが、この一応がその後 20 年も歌い続けるキッカケとなったと云うことです。時に 70 歳、古稀でのデビューです。70 歳で第九に挑戦することが、古来稀なり、です。

確かにテナーの人数が少なく、日曜ごとに練習するのですが、出て来るのが 3 人とか 4 人なんて云うことが時々あり、こうなると個人レッスンみたいなものでためにはなりますが、音を外すとすぐにバレルので新参者はとても神経を使ったものです。さて本番の演奏会ですが、当時逗子にはまだ市民ホール的なものが無く、隙間風の吹き込む古ぼけた体育館が会場で、石油ストーブで寒さを防ぎ、折畳み椅子を持ち込んで客席をしつらえ、手動の投光器がステージライトと云う次第で、市民手作りの演奏会と云った趣きでした。懐かしい思い出です。

鎌倉（芸術館）へ

4，5 年逗子の第九に参加し、15 年前（2001 年）からは鎌倉の第九に参加することにして今日に至っています。逗子の第九が毎年は行われなくなったからです。3 階で客席 1500 の大ホール、本格的なステージライティング、芸術館の偉容はいささか晴れがましいが、歌い甲斐がありました。

日本での第九は、プロもアマもシラーのドイツ語の歌詩で歌うのが普通ですが、鎌倉では 7，8 年前から、なかにし礼さんの日本語の訳詩で歌うようになりました。よく分らないドイツ語でより日本語で意味を噛みしめながら歌おうと云うことか位に思っていましたが、前々回はドイツ語でしたから意図不明です。ドイツ語でなけりゃという御人も結構いるので、たまにはドイツ語でと云うことでしょうか。

▲写真は筆者：第九コンサート／鎌倉芸術会館にて

また一年、一年ごとの第九かな

圧巻のフィナーレに続く拍手の嵐を、歌い終ったばかりの直立の姿勢に受けながら、この一年を無事に過すことが出来て、今ここに再び生きて在る悦びをしんみりと感ずるのです。年を取るにつれてこの感慨が次第に深まっています。かくて老生にとって第九は、一年毎の無事を確認する場であり行事でもあるのです。演奏会のあとの打上げが終って別れ際に「来年また会おうぜ」と、親しい仲間同士の掛け合う言葉が、また翌年の第九に向って、そっと私の背中を押すのです。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

長く楽しませて頂いたが、今や卆寿を過ぎて声量の衰えは蔽うべくもなし。ソロではないので何とかごまかせては居ますが、やはり悲しいかな、そろそろ潮時かと思うこの頃であります。

いきいきライフ

会社生活 40 年、そして大船地区研究所への期待

村上　圭司

会社生活 40 年を振り返り

1976 年に三菱電機に入社して今年で 40 年になる。通電に配属されて、当時主流のアナログ方式の国際衛星通信システムを、大容量デジタル変調方式に置き換えるための研究開発を担当。以降、情電研、通シ研を経て現在の情報総研と、無線通信技術の研究開発を中心に勤務した。三菱電機に 30 年在籍し、この間、携帯電話等の各種デジタル無線通信・衛星通信関連の先端技術の開発・標準化等に携わった。

10 年前に関係会社の島田理化工業(株)に移り、さらに太洋無線(株){現在、三菱電機特機システム(株)}に勤務して、昨年から再度島田理化工業で勤務している。

会社生活 40 年を 10 年ごとに見ていくと、入社後諸先輩に追いつき追い越せの必死の 10 年、次の主担当として飛躍の 10 年、周囲が見え部下もいてある程度思い通りに動けた充実の 10 年、そして関係会社での新たな勉強と新発見の 10 年と、大別できよう。

感性を如何に磨くか

会社生活を通じて、仕事はひとりではできないこと、他者との連携やチームの総合力で仕事を推進し、自分も周囲の人から大きな力を得ていたことを感じる。例えば、最先端の通信関連技術は、高度な技術開発に加え世界各国で共通に使ってもらうための標準化のプロセスを踏む。個人の力や会社の組織力に加え、海外の当社研究所や志を同じくする国内海外の社外の人と連携した活動が必須になる。この中で、日本人、欧米人、東洋人の違いが如実に感じられる。日本人の特徴の一つである「おもてなし」の心だけでは不十分で、自己主張と最終勝利者になるための他社を巻き込んだ戦略などが必要になる。一方、当然ながら自分をさらけ出し、信頼を得ないと他者は応えてくれない。全体を鳥瞰して戦略を立てる広い視野と、個々の技術・作成文書の文言まで気を配る繊細さとの両方を身に付け、トータルで最良のハーモニーを奏でることが大切だと感じる。

関係会社での活動と大船地区研究所への期待

関係会社を 2 社経験して、各会社での無線通信関連事業の維持発展と、さらには事業構造改革等も体験した。これらを通じて、小さな規模の関係会社には、設備・人材・資金を含めた各種制約条件のもとで、日頃から人材育成と技術の伝承に取り組みながら、同時に如何に効率よく新事業を立ち上げて発展させるかが大きな課題であることが実感できた。

こうした中で、関係会社での製品化開発を通じて、行き詰まったときは即座に情報総研の関係部門に連絡し、設計理論と試験評価の両面で、情報総研の各部には多大なご指導とご支援を頂いている。

関係会社において情報総研はじめ研究所の存在は大きいと感じる。関係会社では研究所の研究成果を元に事業化していきたいとの期待もあり、これで双方にメリットを出せれば好都合であろう。さらに、研究所の中堅クラスの人材を関係会社にある期間送り込んで頂き、開発・製造・事業運営など幅広く経験してもらうことで、将来性豊かで奥行きのある研究者・技術者に育つのではないかと考える。

筆者の近況
(高野山にて)

次の 10 年を如何に生きるか

自分の時間を最優先に、私なりに新たな分野にチャレンジしたいと考えているが、体力・気力・知力に加え維持継続する強い精神力が必須であろう。また、一方で自分は永遠の流れ(歴史)の中に何を残せるのか？と自問する毎日である。「百代の過客」である月日は永遠の旅人であり、その中に身を置いてこれに逆らうことなく、マイペースで時にあれこれ迷いながら、肩肘を張らずに気楽にやっていきたいとも思う。

桜船会は諸先輩方が運営している立派な親睦の会であり、日々頭を悩ます私にとって今後ますます仲間意識の高まりを感じさせて頂けるものと期待しています。

いきいきライフ

リタイヤしてから３年が経ちました

田中　準一

商研（現在の住環境研究開発センター）に入社し、いくつか経験してまたこちらに戻って、桜船会に入れて頂きました、宜しくお願いいたします。これまで、旅行、音楽、麻雀以外これといった趣味もなく、今後の過ごしかたを模索していることを紹介させて頂きます。

「1 年目」

すぐに、時間を持て余し、たまたま TV で鎌倉 33 観音巡りを見て、運動になるし、手軽と思って、第 1 番札所の杉本寺にいき、御朱印帳を購入しました。家に帰ってよく見ると、坂東 33 観音巡りでした。これも観音さまの思し召しと考え、これまでの人生の懺悔と生き方のヒントを得るため、早速スタート。

■　日帰りの観音巡り

神奈川、東京、千葉、埼玉等の近い所は何回かに分け車や電車で回りました。駅前にあるのは浅草寺くらいで、駅から遠いところが多く拝観時間など事前調査が必須です。結局 13 観音にお詣りできました。

■　宿泊での観音巡り（4 泊)）

○効率的に廻るプランを考え、まず埼玉から群馬に抜け宿泊し、栃木を廻って 9 か所をお詣りしました。いくつかの観音様は山奥にありました。

○次は千葉の奥から出発して茨城で一泊し、茨城の残りの 8 か所をお詣りしました。

○千葉に結願のお寺があり、ゆっくり廻り 3 か所、計 33 観音を廻れました。やっと結願達成です。

○ところが御礼参りというのがあり、別途長野の善光寺と別所温泉にも参拝しました。

■　「感想」

○多くの趣ある観音様のお参りができた達成感。

○関東平野は広く、初めての場所の多さを痛感。

○滝（袋田、華厳)、温泉（万座、別所他)、そば、レンコン、こんにゃく、など観光・食事も満喫。

■　「ご利益」

観音様から何か人の役に立ちなさいというお言葉をいただいたような気がしました。

「2 年目」

何か人のためということで、電機会社につとめていたご縁もあり、高齢者のボランティアで、資格があったほうがよいと思い、簡単といわれる電気工事士 2 種をとろうと、まず筆記試験用の勉強をし、試験に臨みました。試験場では大丈夫と思いましたが、発表された正解をみると、どんどん間違いが。後の合格発表では、一応合格。次の、実技試験では隣の高校生が、回路図からさっさとケーブルを切って接続し組み立てているのを横目に見て、頭と手が一緒に動かない自分に腹が立ちました。これでやめというときに、また来年受験は嫌だなと思い会場を去りました。結果はなんとか合格。この後、知り合いの高齢者の電気工事や相談を行っております。

「3 年目」

旅行他の趣味について触れておきます。旅行は計画と実行と思い出などたくさん楽しめますので、メザシでご飯を食べても、格安の旅行を考えるのが好きです。例えば、ホテル日航に泊まるのに、JAL からでなく ANA から予約して、格段に安かったときのうれしい気持ち。3 年目に卒業旅行以来のフランス・モンブランに登ったときの写真をつけます。このときは、ウィーンでコンサート・オペレッタにもいきましたが、演目もネットで見て予約しました。海外は、国によって、シニアの鉄道や観光費用が半額になります。ホテル代も同様で、これも楽しみです。

国内旅行やコンサートの情報もよく見ています。

◀ 写真は
エギュ・デュ・ミディ
展望台にて筆者

さて、現実に目を向けて、家庭平和のため男の料理教室に通って 3 年たちます。今は、事前に送られてくるレシピを家内が見て、タッパを必要数リュックに入れてくれます。その夜は、これが夕食です。また、料理仲間との工場見学やハイキングも楽しみの 1 つです。なお、それでも時間がありますので別途ボランティアの会に入りました。

有益な過ごし方を是非お教えください。

いきいきライフ

第一の人生、振り返れば

酒井　新一

三菱電機には 1972 年 4 月に入社し、当時の商品研究所（商研、2016 年現在の住環境研究開発センター）に配属された。生まれは北海道旭川市で、大学卒業後は大船の地に勤め続け、住まいは鎌倉市と横浜市（港南区）で、かれこれ 44 年が過ぎた。

三菱電機での仕事は、頭初数年は電子制御回路の研究だったが、その後、スピーカの研究開発に携わり、音響技術研究を 30 歳代半ば迄続けた。ダイアトーンのバックアップであり、大型の新モニタースピーカの開発に始まり、例えば圧電材などを使う新方式スピーカ開発、音場解析手法開発、等々を行った。

当時のオーディオ界は、高音質・高忠実度を目指した所謂 HiFi ステレオ装置開発を各社が競っていた真っただ中であった。スピーカもその流れの中で自分も一翼を担い、新振動板材料や音の低歪化などの高性能化研究を行った。一方、新技術として、音の伝搬状態を数値計算して音場の様子を把握できる音場解析法の導入も行った。有限要素法や境界要素法の新手法を適用する解析法を国内メーカとして最初に導入し、スピーカ開発に応用した。

30 歳代半ばを過ぎて、一時、プリンタ・スキャナの情報機器関連の機構開発を担った。そして 40 歳代前半は、家電品の操作パネル改善のためのユーザインタフェース研究を続けた後、40 歳代半ばを過ぎに音響技術の業務に戻った。1998 年 10 月には三菱電機エンジニアリング（MEE）に出向となり、2004 年に転籍しそこで定年まで勤めた。

ＭＥＥでは、従来のスピーカとは発音方式が全く異なる超指向性スピーカ（パラメトリックスピーカ）の開発・製品化を行った。このスピーカは、「超指向性」の特徴をもち、スピーカの正面軸上に音場を形成し、正面軸から離れると音が徐々に聞こえなくなるという性質を持つ。超指向性スピーカは、MEE の革新的な独自製品として 2003 年に製品化され、以後、国内において唯一の本格的メーカとしての地位を堅持し続けている。駅の発着案内、博物館・美術館展示品の個別説明、エスカレータや動く歩道の注意喚起、等々に広く応用されている。このパラメトリックスピーカの研究により、定年前に博士号を取得した。

公私を分ければ、仕事面では上記のように音響技術が主たるエキスパティーズとなったが、私的な趣味で言えばスポーツをすることになろうか。

小さい頃から 20 歳位迄では、野球・陸上競技やスキー・スケートを折に触れてやっていたことが印象に残っている。入社後は、商研のバレーボールクラブに入部し素人ながら毎週一回青春（？）の汗を流した。その傍ら、昼休みには体育館でバドミントンをしたり、休日などには愛好仲間から誘われるまま野球をしたりした。冬には、のめり込むほどでもなかったが商研や大船地区のスキーツアーに参加したりもした。バレーボール、バドミントン、野球（ソフトボール）、スキーの職場対抗や全社大会などには率先して参加していた。懐かしく楽しい想い出である。

晩年、50 歳を過ぎてからは健康のためランニングを始め、今も続いている。一週間に１・２度走る程度なのでタイム短縮は遅々としており、ゆっくり気楽に走っている。10km 主体のレースにも数か月おきに参加しているが、マラソンは５回ほど走った（ホノルルマラソン ３回、東京マラソン ２回）。

リタイヤの身になって大きな目標は特に無いのであるが、やりたいことが出てきたらやってみようかという気楽な気持ちで過ごしている。家に閉じこもらず、体を動かせることあれば取り組んでみようかと、なんとなくそんな風に思っている次第。

そんな中、去年（2015 年）から地元のシニアソフトボールチームに参加させてもらい、新人として練習や試合に出て体を動かしている（写真）。

▲シニアソフトボールチームでのスナップ
（筆者：後列最左端）

エッセイ

古いものと新しいもの

三宅　真

東福寺

昨年，京都の東福寺に行きました。東福寺は歴史のあるお寺ですが，モダンなデザインの庭園があります。カメラを携えて見に行きました。

庭園は，昭和初期に重森三玲（しげもりみれい）という作庭家によって作られたものだそうです。西の庭には，直方体の形に刈り込まれたサツキがありました。東部地区研究所の植え込みに似ています。サツキが市松模様の形に配置されて，立体的な幾何学模様が作られていました。北の庭に行くと，そこには苔が市松模様の形に配置されていました。

東福寺西庭

東福寺北庭

不思議な庭園です。ながめていると，心が落ち着いてくるのを感じると同時に，楽しく，豊かな気持ちになるのを感じます。東福寺の庭園は，伝統的な方丈の庭園が幾何学模様という新しいデザインに出会って進化を遂げたものなのだと思いました。

バッハの音楽

音楽が好きで，日頃良く聴いています。東福寺の庭園をながめていて，バッハの音楽を思い出しました。例えば，平均律クラヴィーア曲集。チェンバロまたはピアノが奏でる音楽が，安定したリズムに乗って悠然と進んでゆきます。聴いていると，心が落ち着いてくるのを感じます。同時に，喜び，悲しみなどのさまざまな音楽が心に響いてきます。聴き終わった後は，とても豊かな気持ちになります。

バッハの音楽はクラシック音楽ですが，今日に通じる新しいものが含まれているように感じます。

ディジタル通信

三菱電機では，ディジタル通信技術の開発に携わっていました。衛星通信，スマートフォン，インターネットなどで身近なディジタル通信ですが，そこにも古いものと新しいものとの出会いがあります。

兵庫県神戸市に旗振山（はたふりやま）という山があります。標高約 250mの小高い山です。江戸時代に，この山の頂で旗が振られていたのだそうです。今日，経済動向がディジタル通信を使ってインターネットあるいはメディアを通じて伝えられていますが，江戸時代のビジネスマンは山に登って旗振り通信を使って大阪の米相場を伝えていたのだそうです。

ハイキングで山に登ると，遠くの山の頂にマイクロ波中継のアンテナが見えることがあります。江戸時代の旗振り通信が進化を遂げた姿が今日のマイクロ波中継なのだと考えると愉快な気分になります。

旗振り通信は旗の色と形によって，モールス電信は信号の長短によって情報を伝えます。いずれもパターンによって情報を伝えるのですから，一種のディジタル通信と言えるでしょう。

このようにディジタル通信は古くから続いてきた伝統的な通信の手法ですが，20 世紀後半に PCM 技術，情報理論などのイノベーションに出会ったときに大きく進化して，今日の姿になりました。

温故知新

古いものと新しいものとの出会いを通じたイノベーションは，この他にもたくさんありそうです。少し視野を広げてながめれば，身の回りにいろいろなイノベーションを見つけることができそうです。

エッセイ　魅せられた山を描く　吉田 義雄

東京－金沢 2 時間半の北陸新幹線が開通して、早1年、金沢は観光スポットが数多く、グルメ歩き等で、大賑わいで、国内外観光客が 2 倍に増えたとのこと。

開通まもなくの頃、北陸新幹線で、一路金沢へ、富山県に入ると進行左手に、幸運にも、鋭い尾根からなる白銀の剱岳を中央に、3km 級の山々を連ねる立山連峰が視野いっぱいに見えてきた。約 20 分の間県内進行とともに、見る角度が変わり、立山連峰の風貌の変化が楽しめた。この絶景を目にすると、田舎に来たなあと、ホットする一人である。

剱岳登頂ルートのメッカとなる地が、生まれ故郷の富山県上市であり、時には青く、時には赤く、染まる剱岳（上の写真）の絶景を、幼少のころから、目にし、脳裏に焼きついた、唯一魅せられた山である。高校時代から剱岳を、描くようになり、これが発端となり、当時は水彩でしたが、以降写真を観ながら、同じアングルの剱岳を、油絵で描くようになった。

その一凡作が、下図である（F8 号）。

行事報告　春の屋外行事　尾浦 孝夫

1）行　先　：横浜・根岸森林公園から三渓園散策
2）開催日　：平成 28 年 3 月 28 日（月）　曇り
3）コース　：ＪＲ根岸駅集合→10 時出発（徒歩 20 分）→根岸森林公園（園内散策）→11 時出発（徒歩 50 分）→本牧市民公園（昼食）12 時 30 分三渓園南門から入園（内苑自由散策）13 時解散
4）参加費　：1,000 円（横浜市民の「濱ともカード」持参者は 500 円）
5）参加者　：38 名

朝から曇天。リュックに傘を入れて、行事班に電話確認してから自宅をでた。雨と桜の開花を気にしながら根岸森林公園への坂道（階段）を登った。

到着した根岸森林公園は広い芝の公園で、花見には少し早かったがサッカーをする子供たちと会い開放感のある自然を満喫した。その後、根岸競馬記念公苑（日本初の競馬場）、米軍の消防署（消防車をのぞき見）を横目に、折角登った山道を下り、みんなで徒歩 4ｋｍ先の本牧市民公園（昼食場所）へ向かった。

みんなで食べた崎陽軒の「春の彩ちらし弁当」がおいしかったです。

三渓園は南門から入園。ようやく開花の始まったつぼみ桜を見ながら散策し、記念館では三渓の業績、資料、美術品を見学し、本格的な「お点前での抹茶」を楽しみました。平日のためか入園者も少なく、室町時代の建築・三重塔、東慶寺仏殿、燈明寺本堂、臨春閣・・・・10 の国指定重要文化財と庭園など近代日本文化の一端を鑑賞した。

楽しかったです。行事班の皆様ご苦労様でした。

同好会報告　デジカメ同好会　市川　洋子

デジカメ同好会では今年度の春の行事に合わせて初の写真コンテストを実施しました。しかし当日、雨が降りそうな曇り空であったことと、桜の咲き具合がいまひとつであったためか、良いアングルが見つからなかったようで、応募作品が少なく選考に苦慮しました。審査の結果、桜船会だよりの表紙に最優秀作品を、下記に佳作作品を紹介します。

▲ 三渓園「御門」：安達　隼三さん

▲ 三渓園「大池より三重塔」：伊藤　與志夫さん

同好会報告　ハイキング同好会　富山 勝己

1. 神武寺→鷹取山（第１回・山行行事）
   1）開催日：平成 27 年 5 月 25 日（月）　晴
   2）活動内容：JR 東逗子駅に 10 時集合で、逗子中学校の横から新緑の中を鶯の鳴き声を聞きながら約 30 分登り神武寺に着く。咲き初めの岩たばこと「なんじゃもんじゃ」の木を見学後、ちょっとスリルの有る岩場や鎖場を慎重に越えて昼前に鷹取山に到着。美味しい鍋料理とデザート＆少少のアルコールを楽しみ、展望台 139mから江の島と東京湾の船を眺めた後、磨崖仏を経由して、京急・追浜駅近くの雷神社で反省会を行い 16 時に解散した。
   3）参加人員：6 名（布施、福本、藤本、森田、市川、富山）

2.西丹澤→中川温泉（第２回・山行行事）
   1）開催日：平成 27 年 12 月 6 日（日）　晴
   2）活動内容：　新松田駅前から西丹沢までバスで入り、紅葉の山を眺めながら中川沿いの道を歩き、キャンプ場を借りて温かい鍋料理とうどんで昼食を囲んだ。樹齢 2000 年と言われる箒杉を仰ぎ見た後、中川温泉の町営「ぶなの湯」の露天風呂で汗を流して帰ってきた。
   3）参加人員：5 名（飯田、中野、布施、市川、富山）

事務局　会員動向（H27. 10. 11. ～H28. 5. 3.）

（敬称略）

・会員数：264 名（平成 28 年 5 月 3 日現在）

・入会者：1 名　水上治雄
・退会者：15 名　佐藤秋雄、稲葉伊代吉、遠田 勝、末安高幸、小林伍六、清尾克彦、増田裕、幸坂信夫、関本直哉、石井孝、黒柳孝志、高沢正男　渡辺 晃、西木逸夫、鈴木 博

・物故会員：4 名　池田秀行、米倉三千夫、鈴木正子、松本 亮
※　謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■編集後記
「桜船会だより」36 号の表紙写真はデジカメ同好会の協力を得ました。絵画、陶芸や木彫など、みなさまの趣味の作品で表紙をつくりたいと思っています。よろしくお願いいたします。

編集責任者：藤本孝信
編集委員　：桜井貫智　馬場景一　沼田孝治
印刷所　　：（株）さんこうどう